

令和2年 台風第10号について

～ 猛烈な台風が大東島地方に接近。嚴重な警戒 ～

非常に強い台風第10号は、発達しながら北上して、特別警報級の勢力で9月6日未明から明け方に大東島地方にかなり接近し、記録的な暴風となる見込みです。

大東島地方では、5日昼前から6日夕方にかけての長時間にわたり暴風となる見込みで、暴風や高波、高潮、大雨による重大な災害が発生するおそれがあります。

県民のみなさま、特に大東島地方のみなさま、自分の命や大切な人の命を守るため、本日（4日）の夜までには台風対策を済ませるようにしてください。また、市町村が発令する避難情報にも留意して、風が強まる前に頑丈な建物の中に移動するとともに、屋内では窓から離れるなど暴風に嚴重に警戒してください。

1 台風の現況と予想

非常に強い台風第10号は、4日9時には日本の南にあって、1時間におよそ15キロの速さで西北西へ進んでいます。中心の気圧は925ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートルとなっています。

台風第10号は、4日21時までには猛烈な勢力となり、6日未明から明け方に大東島地方に最も接近する見込みです。

2 予想される風や波、雨量などの防災事項

大東島地方は、5日昼前から暴風となり、5日昼過ぎから6日午前中は猛烈な風が吹き記録的な暴風となるおそれ。暴風は6日夕方にかけて長時間続く見込み。暴風に嚴重に警戒。

大東島地方は、4日夜のはじめ頃から大しけとなり、5日から6日にかけて猛烈にしける見込み。大しけの状態は7日にかけて続く見込み。うねりを伴った高波に嚴重に警戒。

大東島地方では、5日から6日は1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降る見込み。また、5日12時から6日12時までの24時間雨量は200～300ミリの見込み。低い土地の浸水に十分注意。台風の発達等によっては、警報級の大雨となるおそれ。落雷や竜巻などの激しい突風にも十分注意。

大東島地方では、5日から6日は潮位が高くなる見込み。海岸付近の低地では高潮による浸水や冠水に十分注意。台風の発達等によっては、警報級の高潮となるおそれ。

なお、沖縄本島地方では、6日未明から6日夜遅くにかけて暴風となる見込み。暴風に警戒。海上や海岸付近では、5日から7日にかけて大しけや猛烈なしけとなる見込み。うねりを伴った高波に嚴重に警戒。また、6日は台風の発達等によっては警報級の大雨や高潮となるおそれ。落雷や竜巻などの激しい突風にも十分注意。

風や雨が強まり外での行動が困難となる可能性があります。市町村が発令する避難情報に従うなど、適切な行動をとってください。危険な場所には近づかないでください。過去

に土砂災害や浸水害、洪水害、高潮害などが発生した地域は特に警戒してください。

過去の台風災害から、最大瞬間風速60メートル以上の風が吹くと、家屋の倒壊や車両の横転・破損、広範囲な電柱の倒壊、倒木による道路寸断や建物の損壊、長時間の停電、窓ガラスの破損等が予想されます。また、強風による転倒やドア開閉時の指の負傷等の人的被害も発生しています。

3 具体的な台風対策

(家の外の備え)

- ・窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強しましょう。
- ・側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておきましょう。
- ・高潮と高波、大雨が重なり、海岸付近の低い土地の浸水、港湾内での船舶の被害のおそれがあります。早めに対策しましょう。

(家の中の備え)

- ・非常用具を確認しましょう。(懐中電灯、携帯用ラジオ(乾電池式)、救急用品など)
- ・室内からの安全対策をしましょう。(窓ガラスに飛散防止フィルムやテープなどを張ったり、カーテンやブラインドを下ろすなど)
- ・水の確保をしましょう。(断水に備えて飲料水を確保したり、浴槽に水を張って生活用水を確保するなど)
- ・非常用食品を準備しましょう。(乾パンやクラッカー、レトルト食品、缶詰など)

(台風が接近しているときは)

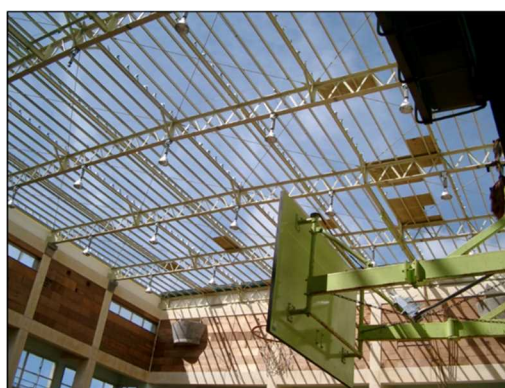
- ・雨で増水した小川や側溝は境界が見えにくくなり、転落事故などが発生します。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなります。日頃は安全と思われている場所でも油断せず、危険な場所へはむやみに近づかないようにしましょう。
- ・台風が接近し暴風となると、風により物が飛ばされたり、飛んできた物にぶつかったり、車が転倒したりするおそれがあります。また、風に煽られてドアや扉に手や指を挟まれるなどの被害も発生します。不要な外出は避け、台風が過ぎ去るのを待ちましょう。また、海上や海岸付近では台風接近前から波が高くなり、台風が通過した後もしばらくは波が高いことが多いです。台風接近時は海上や海岸付近に高波を見に行くなど危険な事はやめましょう。
- ・避難とは[難]を[避]けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- ・危険な場所にいる方は、市町村から出される避難情報に従い、風や雨で外が危険な状況になる前、また、明るいうちに避難しましょう。
- ・避難先は、小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- ・市町村が指定する避難場所、避難所が変更・増設されている可能性があります。災害時には、市町村ホームページ等で避難場所や経路を確認しましょう。
- ・避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
- ・日頃から家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておきましょう。
- ・避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が使えるようにしましょう。
- ・气象台では、台風の影響が考えられる場合や雨などにより重大な被害が発生するおそれがあるときには、「台風情報」や「警報・注意報」を発表します。テレビやラジオ、气象台ホームページから最新の情報を入手してください。

問い合わせ先 沖縄气象台業務課 (098-833-4283)

(参考) 過去の災害状況



暴風により横転した車【宮古島】(気象台撮影)



体育館の被害【宮古島】(気象台撮影)



建物の倒壊【与那国島】(気象台撮影)



電柱の倒壊【与那国島】(気象台撮影)

上段：2003年台風第14号（宮古島：最低気圧912.0 最大風速38.4 m/s、最大瞬間風速74.1 m/s）

下段：2015年台風第21号（与那国島：最大風速54.6 m/s、最大瞬間風速81.1 m/s）

観測史上1~5位の値（年間を通じての値）

南大東（沖縄県）

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	統計期間
日最大風速・風向 (m/s)	43.5 南南東 (1958/9/15)	41.0 東南東 (1961/7/29)	40.5 北 (1958/11/1)	39.8 北東 (1961/10/2)	39.1 南南東 (2009/10/7)	1947年1月
日最大瞬間風速・風向 (m/s)	65.4 北東 (1961/10/2)	61.5 南 (2000/8/6)	58.9 南東 (2009/10/6)	58.0 東南東 (1961/7/29)	57.6 南南東 (2009/10/7)	1947年1月
日最低海面気圧 (hPa)	936.8 (2005/9/4)	945.4 (1982/8/25)	945.4 (1976/7/2)	946.4 (1976/11/6)	947.2 (1949/10/27)	1942年2月

北大東（沖縄県）

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	統計期間
日最大風速・風向 (m/s)	39.1 南東 (2009/10/7)	37.3 南東 (2009/10/6)	32.3 北北東 (2014/8/7)	32 北北東 (2005/9/4)	30.5 南 (2015/7/25)	2003年1月
日最大瞬間風速・風向 (m/s)	57.1 南東 (2009/10/7)	55.6 南東 (2009/10/6)	47.3 北北東 (2014/8/7)	45.3 北北西 (2014/10/4)	41.7 南 (2015/7/25)	2009年1月

<参考資料>

◆雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	雨の強さ (予報用語)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10~20	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 	雨の音で話し声がよく聞き取れない。 	地面一面に水たまりができる。 	
20~30	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。 	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。 	道路が川のようになる。 	ワイパーを速くしても見づらい。 
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。				高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象) 
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。 		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 	車の運転は危険。 
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

◆風の強さと吹き方

平均風速 (m/s) おおよその時速	風の強さ (予報用語)	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	瞬間風速 (m/s)
10~15 [~約50km/h]	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。 	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。 	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。 	種(とい)が揺れ始める。 	20
15~20 [~約70km/h]	強い風	高速道路の自動車	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。 	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。 	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。 	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。 	30
20~25 [~約90km/h]	非常に強い風		何かにつかまっていらないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。 	通常の速度で運転するのが困難になる。 	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。 	40
25~30 [~約110km/h]		猛烈な風	特急電車	屋外での行動はきわめて危険。 	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。 	走行中のトラックが横転する。 	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。 
30~35 [~約125km/h]	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。 						60
35~40 [~約140km/h]	住家で倒壊するものがある。鉄骨建造物で変形するものがある。 						
40~ [~約140km/h]							